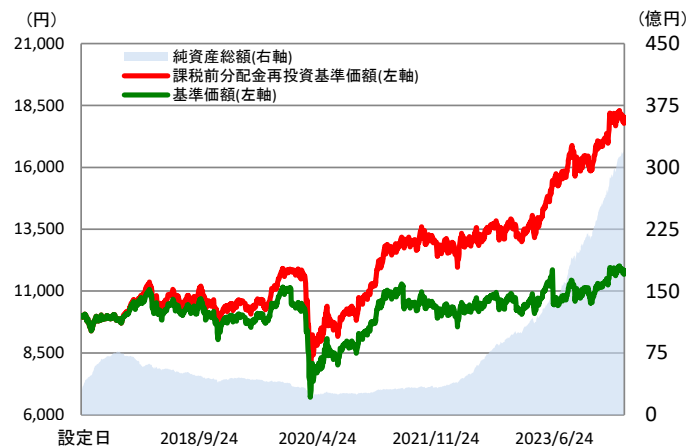




追加型投信/国内/資産複合

いちよし日本好配当株&Jリートファンド 年4回決算型 愛称 明日葉(あしたば)

いちよし日本好配当株&Jリートファンド 年4回決算型 運用実績



※基準価額は1万口当たりの金額です。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

基準価額	11,830円
前月末比	- 141円
純資産総額	323.3億円

ファンド・データ

■設定日: 2017年2月24日

■信託期間: 無期限

■決算日: 毎年3月、6月、9月
および12月の各17日
(休業日の場合は翌営業日)

【ご参考】課税前分配金再投資価額 18,007円

■ファンド騰落率

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
- 1.18%	+ 5.32%	+ 9.57%	+ 22.87%	+ 40.44%	+ 77.23%	+ 80.07%

※ファンドの騰落率は、課税前分配金を再投資したものとして計算しています。

※設定来については、設定時の基準価額10,000円を基準にして計算しています。

※上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

■分配金実績(1万口あたり、課税前)

2023年3月	2023年6月	2023年9月	2023年12月	2024年3月	設定来累計
100円	1,300円	100円	220円	100円	4,470円

※分配金実績は将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

日本好配当株マザーファンド

組入上位10銘柄			
コード	銘柄	業種	組入比率
1 8750	第一生命ホールディングス	保険業	3.3%
2 4183	三井化学	化学	3.1%
3 6141	DMG森精機	機械	2.9%
4 1925	大和ハウス工業	建設業	2.9%
5 3405	クラレ	化学	2.8%
6 9432	日本電信電話	情報・通信業	2.8%
7 8591	オリックス	その他金融業	2.7%
8 5802	住友電気工業	非鉄金属	2.7%
9 4182	三菱瓦斯化学	化学	2.6%
10 7267	本田技研工業	輸送用機器	2.4%

※組入比率は、マザーファンド純資産総額を100%として計算した値です。

■組入銘柄数

66銘柄

業種別配分(上位10業種)	
業種	比率
化学	14.4%
建設業	10.9%
輸送用機器	10.4%
機械	10.1%
情報・通信業	7.7%
不動産業	7.2%
保険業	5.9%
卸売業	4.9%
小売業	4.1%
サービス業	3.7%

※組入比率は、マザーファンド保有株式の評價金額合計を100%として計算した値です。

※業種は東証33業種分類に基づきます。

市場	純資産比率
東証プライム	95.3%
東証スタンダード	0.1%
東証グロース	0.0%
コール・ローン等	4.5%
合計	100.0%

※ コール・ローン等には未収・未払金が含まれます。

※ 純資産比率は、マザーファンド純資産総額を100%として計算した値です。小数点以下第2位を四捨五入しているため、足し合わせても100%に一致しないことがあります。

■ファンドマネージャーコメント

■ファンドコンセプト

いちよし日本好配当株&Jリートファンドは株式およびJリートの中から、予想配当利回り(株式)および予想分配金利回り(Jリート)が市場平均と比較して高く、割安と判断される銘柄を中心に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当ファンドの「日本好配当株マザーファンド」および「いちよしJリートマザーファンド」への投資割合は、経済情勢などを勘案し適宜見直しを行います。

■マーケット概況

2024年5月の国内株式市場は日経平均株価が+0.21%、TOPIXが+1.07%となりました。5月前半は米利下げ期待が追い風となった一方で、後半は日銀による金融引き締めへの警戒や米国での利下げ観測後退などが上値を重くしました。

月前半は4月の米経済指標が市場予想対比で下振れし、早期利下げへの期待が高まりました。4月の米消費者物価指数(CPI)の伸び率が鈍化したことで利下げ期待が高まり、米主要株価指数は堅調に推移、国内株式市場も上昇基調となりました。

月後半の国内株式市場は日米の金融政策への不透明感が株価の重しとなりました。日銀が国債買いオペの購入額を減額したことで長期金利は上昇しました。米国では4月の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨の内容から早期利下げ期待が後退し、主要株価指数は伸び悩みました。内外の長期金利の上昇などから日経平均株価は月末にかけて下落し、38,487.90円で終了しました。

■ファンド運用状況

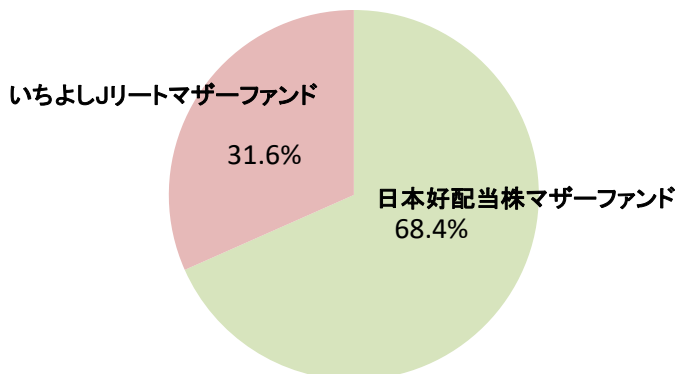
5月末時点の東証プライム全銘柄の予想平均配当利回り(加重平均)は2.21%ですが、日本好配当株マザーファンドは3.39%です。東証上場REIT予想分配金利回り(加重平均)は4.62%ですが、いちよしJリートマザーファンドは4.76%であり、どちらのマザーファンドもファンドコンセプトに則ったポートフォリオ構成となっています。

今後の金融市場動向により変化しますが、日本好配当株マザーファンドへ約70%、いちよしJリートマザーファンドへ約30%とする投資割合を維持する方針です。

■FMコメント

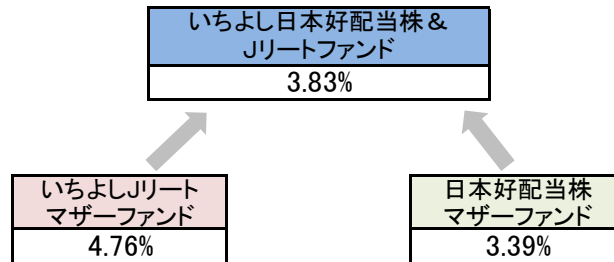
財務省の為替介入により、4月末から5月上旬の為替市場では1ドル157円台から152円台まで円高が進行しましたが、足元では再び1ドル157円台まで円は下落しています。多くの企業が今年度の想定為替レートを1ドル140-145円としており、輸出関連株においては保守的な業績見通しとしています。国内株式市場では決算発表が一巡し、個別の株価材料よりも外部環境の影響を受けやすい環境となっており、やや方向感の欠ける展開となっています。国内においても金利が上昇していることからグロース株よりバリュー株が選好されやすい地合いですが、今年度の増益率とバリュエーションとのバランスで銘柄選別が進んでいくと想定しています。

各マザーファンドへの投資割合



※投資割合は各マザーファンドの投資評価額の合計を100%として計算した値です。

ファンドの予想配当利回り



※上記の予想配当利回りは、組入銘柄の予想配当利回り(課税前)を、加重平均して算出しております。上記の値は市況動向等によって変動します。また、ファンドの運用利回り等を示唆・保証するものではありません。

いちよしJリートマザーファンド

組入上位10銘柄

	コード	銘柄	業種	組入比率
1	3292	イオンリート投資法人	特化型(商業施設)	6.8%
2	8984	大和ハウスリート投資法人	複合・総合型	6.5%
3	8954	オリックス不動産投資法人	複合・総合型	5.4%
4	8960	ユナイテッド・アーバン投資法人	複合・総合型	4.9%
5	3283	日本プロロジスリート投資法人	特化型(物流施設)	4.9%
6	8972	KDX不動産投資法人	複合・総合型	4.8%
7	3462	野村不動産マスターファンド投資法人	複合・総合型	4.8%
8	3296	日本リート投資法人	複合・総合型	4.4%
9	8987	ジャパンエクセレント投資法人	特化型(オフィスビル)	4.4%
10	8968	福岡リート投資法人	複合・総合型	4.2%

※組入比率は、マザーファンド純資産総額を100%として計算した値です。

■組入銘柄数

42銘柄

業種別配分

業種	組入比率
複合・総合型	56.6%
特化型(オフィスビル)	14.6%
特化型(物流施設)	10.9%
特化型(商業施設)	6.9%
特化型(物流施設+その他)	3.5%
特化型(住宅)	3.4%
特化型(ホテル・旅館)	2.4%
特化型(オフィスビル+その他)	1.2%
特化型(ホテル・旅館+その他)	0.6%

※組入比率は、マザーファンド保有リートの評価金額合計を100%として計算した値です。

※業種は、一般社団法人不動産証券化協会の分類によります。

■野村不動産投資顧問コメント

■先月の投資環境

5月のJ-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は-3.45%となりました。5月前半は、米国長期金利が低下したことを好感し、上昇して始まりました。しかしその後は、国内長期金利が上昇に転じたことから、月末にかけて東証REIT指数は1,750ポイントを割り込む水準まで下落しました。

セクター別では、オフィスが参考指標を上回る一方で、住宅、商業、物流等は参考指標を下回りました。

個別では、星野リゾート・リート投資法人が調達資金上限を202億円、平和不動産リート投資法人が調達資金上限を55億円とする新投資口の発行を公表しました。物件の取得や譲渡の動向としては、星野リゾート・リート投資法人が290億円の物件取得、いちごオフィスリート投資法人が155億円の物件取得と45億円の物件売却等の動きがみられました。

■先月の運用経過

いちよしJリートマザーファンドの主な投資行動として、投資価値の観点から割安感が高まった複合・総合型のユナイテッド・アーバン投資法人のアクティブウェイト(個別銘柄の参考指標における構成比と異なる保有比率とすること)を引き上げた一方、投資価値の観点から割高感が高まった複合・総合型のマリモ地方創生リート投資法人のアクティブウェイトを引き下げました。

■今後の運用方針(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

東京都区部のオフィス市場は、2024年4月の空室率が5.38%と前月比で減少し、雇用環境の堅調さと出社率の回復の継続により需給は底堅く推移しています。また、平均募集賃料は前月比で+5円(+0.03%)と、僅かながらも上昇しました。ホテルは宿泊者数や客室売上がコロナ以前の水準を上回るなど、力強い回復が続いています。商業施設も、経済活動の正常化と円安によるインバウンド需要の回復を背景に、回復基調が続いています。物流施設は引き続き需要が拡大する一方で、高水準の供給が継続しており、一部で需給の緩和が見られます。賃貸住宅市場では、首都圏を中心に需要が良好で、他の大都市圏でも安定した需要が続いており、物件の稼働率は全体的に高い水準を維持しています。特化型(商業施設)のイオンリート投資法人や特化型(オフィスビル)のジャパンエクセレント投資法人の投資口価格は、投資価値に比して割安な水準にあるとみて、同銘柄をオーバーウェイト(参考指標よりも高い投資比率)としています。特化型(オフィスビル)の日本ビルファンド投資法人や特化型(住宅)のアドバンス・レジデンス投資法人の投資口は、投資価値に比して割高な水準にあるとみて、同銘柄をアンダーウェイト(参考指数よりも低い投資比率)としています。

今後につきましても、割安感が増した銘柄のウェイトを引き上げ、割高感が増した銘柄のウェイトを引き下げる方針です。

当ファンドは各J-REITが保有する不動産の価値に基づき算出した割安・割高等の結果を踏まえてポートフォリオを構築します。また、公募増資などによる投資口の追加発行や合併に伴う時価総額の増加などには適宜対応する方針です。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

「日本好配当株マザーファンド」および「いちよしJリートマザーファンド」(以下「マザーファンド」ということがあります。)受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している株式および不動産投資信託証券(以下「Jリート」ということがあります。)に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

- わが国の金融商品取引所に上場している株式およびJリート(上場予定を含みます。)の中から、予想配当利回り(株式)および予想分配金利回り(Jリート)が市場平均と比較して高く、割安と判断される銘柄を中心に投資を行い、高水準のインカムゲインの獲得を目指します。
- 当ファンドの各マザーファンドへの投資割合は、経済情勢、金融市場動向などを勘案し、適宜見直しを行います。株式の投資割合は70%を基準に、上下20%の範囲で柔軟に見直しを行います。
- Jリートの運用に当たっては、野村不動産投資顧問株式会社から投資助言を受けます。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式およびJリートへの投資を行いますので、組入れた有価証券の値動きにより、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。したがって、当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

※以下の事項は、マザーファンドのリスクも含まれます。

価格変動リスク

株式は、個々の企業の活動や、国内および国際的な政治・経済情勢等により価格が変動します。また、Jリートは、保有不動産の状況、市場金利の変更、不動産市況や株式市場の動向等により価格が変動します。当ファンドは実質的に株式およびJリートに投資を行いますので、これらの影響を受けます。そのため、当ファンドの投資成果は、株式およびJリート価格変動があった場合、元本欠損を含む重大な損失が生じる場合があります。

信用リスク

当ファンドは、有価証券への投資を行うため、有価証券発行体の信用リスクを伴います。発行体の経営・財務状況の悪化等に伴う価格の下落により、当ファンドの基準価額が下落し元本欠損が生じるおそれがあります。発行体が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金がほとんど回収できなくなることがあります。

流動性リスク

流動性リスクは、有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく希望する時期に希望する価格で売却することが不可能となることあるいは売り供給がなく希望する時期に希望する価格で購入することが不可能となること等のリスクのことをいいます。市場規模や取引量が小さい市場に投資する場合、また市場環境の急変等があった場合、流動性の状況によって期待される価格で売買できないことがあり基準価額の変動要因となります。

(ご注意) 以上は、基準価額の主な変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。したがって、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間中におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。収益分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、収益分配金の支払後の純資産は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に収益分配金の支払を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比較して下落することになります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

リスクの管理体制

運用部門から独立したリスク管理業務およびコンプライアンス業務担当者が運用状況の評価・分析および流動性リスクを含む運用リスク管理、ならびに法令諸規則等の遵守状況のモニタリングを行っています。これらの結果等は、コンプライアンス・リスク管理部門が、リスク管理委員会、コンプライアンス委員会へ報告を行うほか、必要に応じて運用部門へは是正指示、緊急時対応策の策定・検証などを行い、取締役会の監督のもと適切な運用態勢の維持・向上に努めています。

※上記体制は2024年5月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

委託会社その他の関係法人の概要

委託会社	いちよしアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号 【加入協会】一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会 (ファンドの運用の指図等を行います)
受託会社	株式会社りそな銀行 (ファンドの財産の保管および管理等を行います)
販売会社	販売会社のご照会先は、右記の表をご参照ください。 (ファンドの募集・販売の取扱い等を行います)

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会		
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会
いちよし証券(株)	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第24号	○	○	

※投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは、上記の販売会社へお申し出ください。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。
換金価額	換金(解約)申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金(解約)申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
信託期間	原則として無期限(2017年2月24日設定)
決算日	毎年3月、6月、9月および12月の各17日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用があります。 益金不算入制度は適用されません。

ファンドの費用・税金

◆ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用												
	購 入 時 手 数 料	購入時の基準価額に対し3.3%（税抜3.0%）以内										
	信 託 財 産 留 保 額	換金時の基準価額に対し0.3%										
投資者が信託財産で間接的に負担する費用												
	運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に以下の率を乗じて得た額とします。 ※この他に投資対象とする「いちよしリートマザーファンド」の主要投資対象である不動産投資信託には運用などに係る費用がかかりますが、投資する不動産投信の銘柄は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することが出来ません。 運用管理費用は、日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。										
		<table><tr><td colspan="2">当ファンドの運用管理費用（信託報酬）（年率）</td><td>年 1.364%（税抜 年1.24%）</td></tr><tr><td rowspan="3">配分</td><td>委託会社</td><td>年 0.660%（税抜 年0.60%）</td></tr><tr><td>販売会社</td><td>年 0.660%（税抜 年0.60%）</td></tr><tr><td>受託会社</td><td>年 0.044%（税抜 年0.04%）</td></tr></table>	当ファンドの運用管理費用（信託報酬）（年率）		年 1.364%（税抜 年1.24%）	配分	委託会社	年 0.660%（税抜 年0.60%）	販売会社	年 0.660%（税抜 年0.60%）	受託会社	年 0.044%（税抜 年0.04%）
		当ファンドの運用管理費用（信託報酬）（年率）		年 1.364%（税抜 年1.24%）								
		配分	委託会社	年 0.660%（税抜 年0.60%）								
			販売会社	年 0.660%（税抜 年0.60%）								
受託会社	年 0.044%（税抜 年0.04%）											
※ いちよしリートマザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、上記委託会社が受ける運用管理費用の中から支払われます。												
その他の費用・手数料	監査費用、目論見書等の作成、印刷、交付費用および公告費用等の管理、運営にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用等が、信託財産より支払われます。 ※ 監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。 ※ これらの費用等は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等をあらかじめ表示することが出来ません。											

※上記、ファンド費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することが出来ません。

◆税金

税金は表に記載の時期に適用されます。

以下の表は個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※ 少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 法人の場合は上記と異なります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

この資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にいちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。
- 当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ファンドは、主に国内株式およびJリートに投資を行いますので、株式およびJリートの価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は預金等や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。
- お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
- 市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。